

令和2年度～3年度 大気環境学会分科会

	分科会の名称	代表者 所属 E-mail	設立目的(概要) 分科会ホームページ	活動計画 (抜粋)
1	植物分科会	渡辺 誠 東京農工大学 nab0602@cc.tuat.ac.jp	植物とそれを取り巻く大気環境との関係に関する調査・研究ならびに情報収集・連絡などを通じて、大気環境の実態評価、将来予測、環境改善および緑の保全等に寄与することを目的とする。 <a href="https://sites.google.com/site/taikishokubutsu/home">https://sites.google.com/site/taikishokubutsu/home</a>	1) 幹事会議を開催し(年に3回程度)、活動内容の詳細を検討・決定する。 2) 総会を開催する(年に1回)。 3) 毎年最低1回は講演会を開催する。 4) 活動期間中に1回は全国規模の講演会等を開催する。 5) 活動期間の最終年度に幹事選挙を実施する。
2	大気環境モデリング分科会	櫻井 達也 明星大学 tatsuya.sakurai@meisei-u.ac.jp	都市大気環境モデル研究者間の研究交流・行政担当者との情報交換を促進するとともに、モデル計算結果の確認、不確定性等の評価を行えるモデルの相互比較の場を提供する。また、都市大気環境への影響評価につながる「モデリング」研究全般を視野に含め、都市大気環境モデル研究のレベル向上という学術的立場と研究成果の環境行政へのインプットという社会的立場の双方から、都市大気環境改善に向けて貢献する。 <a href="http://urbanairqualitymodel.web.fc2.com/">http://urbanairqualitymodel.web.fc2.com/</a>	(1) 予測モデル相互比較のための検討 (2) モデル・ワークショップ等の開催
3	酸性雨分科会	山口 高志 地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 t-vamaguchi@hro.or.jp	大気環境中における「酸性雨」に関わる動態的側面及びその陸域生態系影響について学術的討論検討を行うとともに、各種市民団体等に対し酸性雨を通じた環境学習等の支援を行うことにより、大気汚染を含めた酸性雨による環境影響の未然防止に寄与することを目的とする。 <a href="http://www5c.biglobe.ne.jp/~acidrain/">http://www5c.biglobe.ne.jp/~acidrain/</a>	1)大気環境学会開催中に、主に研究者を対象にした酸性雨に関連する諸問題の現状についての討論会を開催する。 2)研究者及び一般市民を対象として、酸性雨研究ニュース(電子メール版)を発行する。 3)環境保全・改善等に寄与することを目的として活動している市民・教職員及び研究者を対象に関西及び関東地区で環境学習・環境教育を加味した酸性雨講演会等を支部と共催する。
4	環境大気モニタリング分科会	中嶋 吉弘 東京農工大学 nakasima@cc.tuat.ac.jp	大気の大気汚染状況は、全国の観測ステーション等で日々膨大な測定データが収集されているが、これらの観測精度を維持するとともに、観測データを十分に活用するためには、その基礎となる測定法や分析法についての理解が不可欠である。当分科会ではPM2.5や光化学オキシダント及びこれらの原因となる物質も含めた大気モニタリングのための測定方法および分析方法等の調査研究を行うと共に、これら情報の共有を図り、大気環境研究の基礎となる大気モニタリングの中核として貢献することを目的とする。 <a href="https://sites.google.com/site/atmospheremonitoring/">https://sites.google.com/site/atmospheremonitoring/</a>	第62回大気環境学会年会時の分科会集会として「大気汚染物質の新規連続自動モニタリングの重要性」をテーマにオンライン講演会を開催する。
5	健康影響分科会	伊藤 剛 (一財)日本自動車研究所 itsuvo@jari.or.jp	大気環境中のガス状および粒子状物質による健康への影響を未然に防止するために、ガス状および粒子状物質の生体影響について科学的な知見を集積し、その健康リスク評価を行うことは重要な課題と位置付けられている。健康影響分科会は、大気汚染物質の発がん(変異原)性、免疫毒性、脳・神経毒性、生殖毒性などへの影響に関する毒性学研究、疫学研究、さらには新たな評価手法の開発(新規モデル動物や新たな細胞技術の活用、曝露評価手法の構築など)の推進を目的として活動する。 <a href="https://sites.google.com/site/kenkoueikyou1/">https://sites.google.com/site/kenkoueikyou1/</a>	1)大気環境学会年会時の分科会や特別集会にて、大気汚染物質の物理学的・化学的性状、疫学調査、実験研究等を専門とする研究者を招いて講演会を開催する。 2)大気環境の健康影響問題に係わる研究者間の交流を適宜図り、情報や意見の交換、研究活動の活性化を促進する。

	分科会の名称	代表者 所属 E-mail	設立目的(概要) 分科会ホームページ	活動計画 (抜粋)
6	モビリティ環境分科会	柏倉 桐子  (一財)日本自動車研究所  kkiriko@iari.or.jp	自動車の排出ガスは厳しい排出規制によって大幅に改善されてきた。一方、他の移動発生源から排出される大気汚染物質の把握と低減が相対的に重要となり、人と物の移動およびそれらの周辺環境、即ちモビリティ環境が生物や気象にとって脅威とならないよう配慮が必要である。 当分科会は、これまでの自動車環境分科会としての活動を基礎にしつつ、急速に変化しているモビリティ環境に係わる広範囲な大気環境問題を総合的に取り扱う。 分科会の研究活動の目的は、モビリティ環境により ① 発生する環境負荷を低減する研究とネットワークの構築、② 大気環境への実効性、有効性の高い対策、 ③ 環境負荷あるいは改善による効果を把握、	① 講演会 年会開催時の講演会を含め、年2回程度のシンポジウム等を開催 ② 見学会 研究機関、対策事例等の見学及び講演会を開催 ③ 委託事業の受託 研究事業の受託
7	室内環境分科会	篠原 直秀  国立研究開発法人 産業技術総合研究所  n-shinohara@aist.go.jp	室内空気環境全般に関わる諸問題に関して、人の健康保護のみならず快適な環境という観点から研究の発展を促進することを目的とし、会員相互の交流を図るとともに、研究者の連携による対外活動(調査研究等を含む)等を、積極的に推進していく。  <a href="https://sites.google.com/site/jsaeindoorenvironment/">https://sites.google.com/site/jsaeindoorenvironment/</a>	各年度に年次総会における分科会を開催する。期間内に、室内空気環境に関する資料集等を作成し、分科会主催の講演会を開催する。
8	放射性物質動態分科会	渡邊 明  気候変動研究所  watamav1948@yahoo.co.jp	東日本大震災と津波に伴う福島原発事故で放出された大量の放射性物質の大気環境への影響は大きく、大気環境学会理事会声明にあるように、大気環境学会として長期的に取り組むべき課題である。また、国内に多数の原発が存在しており、そのモニタリング体制などの構築も急務である。これらの背景のもとに、本分科会は、以下の目的で活動するものである。 (1) 福島原発事故による大気環境への影響に関する取り組み (2) 国内に多く存在する原発周辺のモニタリング体制および手法や予測手法の検討 (3) 他の学会や研究グループなどとの連携	① 勉強会・研究会を随時開催する。 ② 年に1回程度、他学会や研究グループ/研究機関などと共同で、ワークショップやシンポジウムを開催し、その結果を学会誌、学会ホームページ等から発信する。 ③ 大気環境学会年会の開催期間中に、分科会講演会もしくは特別集会を開催する。 ④ 現地見学会などを開催する。 ⑤ 行政担当者や住民に対し、科学的知見をわかりやすく情報発信する。
9	臭気環境分科会	樋口 隆哉  山口大学  takaya@yamaguchi-u.ac.jp	大学、公的研究機関、行政機関、民間研究機関、メーカーやコンサルタント会社など種々の機関で臭気に関する研究・業務に携わっている人々が集まり、臭気の測定・評価方法、防・脱臭対策、行政施策、にの活用、嗅覚メカニズム解明などに関して、全国各地に広がるネットワークを通じてお互いの情報交換あるいは共同研究や現地調査を行って臭気対策を推進し、快適な生活環境の保全に寄与することを目的とする。  <a href="https://sites.google.com/site/jsaeodor/">https://sites.google.com/site/jsaeodor/</a>	大気環境学会年會時に全国規模の全体集会を開催する。この他、適宜、研究会や見学会または臭気調査を行う。
10	都市大気エアロゾル分科会	池盛 文数  名古屋市環境科学調査センター  fumikazu.ikemori@gmail.com	PM2.5の環境基準達成率は90%以上にまで向上し、2013年におこったPM2.5問題は一定の収束を迎えた。しかし、まだ環境基準が未達成の地域が大都市や瀬戸内地域などにあり、その要因の解明と対策が求められている。加えて二次有機エアロゾルの生成メカニズム、植物起源のエアロゾルの都市域への寄与等などの課題も多く残されている。また、大気エアロゾルは超微小粒子から粗大粒子まで、幅広い粒径範囲にわたっており、都市大気における動態や人体・生態系への影響を解明するために、粒径によって異なる物理的・化学的性質に関する知見をさらに積み重ねていく必要がある。 本分科会は、こうした都市大気エアロゾルに関する課題について、国内外の研究動向、知見などを共有化する場を提供するとともに、今後必要とされる研究の方向性を発信することを目的として活動する。 <a href="https://sites.google.com/view/jsae-aerosol/">https://sites.google.com/view/jsae-aerosol/</a>	・ 2020年および2021年の大気環境学会年會において、関連するテーマの講演・討論会を企画・開催する。 ・ 各支部のエアロゾル関連部会との協同により講演会やセミナーを開催する。 ・ 関連する他の分科会や、エアロゾル学会など他学会において都市大気エアロゾル分野で活躍する研究者と交流する機会を持ち、情報交換や研究活動の促進を図る。 ・ 行政施策の参考となるような報告や科学的で公平な提言活動を積極的に行う